

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員および研究員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	第45回日本神経精神薬理学会・第37回日本生物学的精神医学会
演題名	胎生期バルプロ酸曝露マウスにおける行動異常とケモカインの脳内発現
発表者	○ <u>村上浩子</u> 、中村泰子、 <u>和賀央子</u> 、 <u>鳩山拓史</u> ※、茂木悠※、関健太※、瀧口皓大※、池田和隆、 <u>内野茂夫</u>
内容	2015年9月に東京都タワーホール船堀で行われた上記学会にて、内野研究室の村上研究員が「胎生期バルプロ酸曝露マウスにおける行動異常とケモカインの脳内発現」についてポスター発表を行った。本研究では、胎生期に神経発達毒であるバルプロ酸を曝露した発達障害病態モデルマウスにおいて、生後発達期における協調運動、情動、社会性に関する行動試験を行うとともに、発達過程の大脳皮質における種々のケモカインの発現を定量PCRで解析した。特に、定量PCRは平成26年度の卒研生が中心に行った研究成果である。
関連画像	